

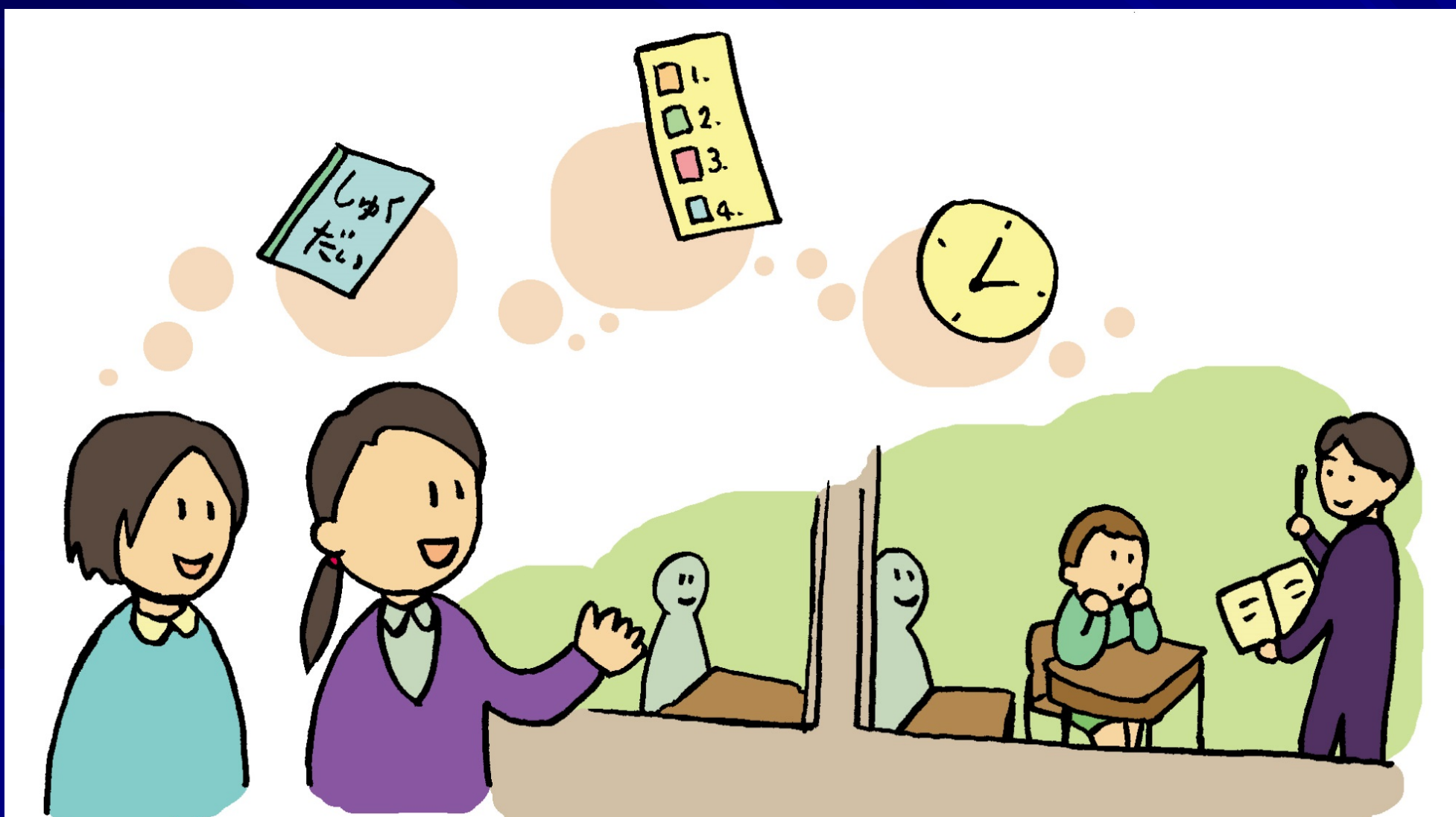
発達障がいのある学生の理解と支援について

—具体的な対応と支援の実際—

大阪大谷大学教育学部
特別支援教育実践研究センター

小田 浩 伸

多様なニーズのある学生の理解と支援



困っている学生の気づきと理解の観点(例)

- ◇興味のある科目とそうでない科目の取組み方に大きな差がある。
- ◇板書された内容を、ノートに書きとることができない。
- ◇教員の話や指示を聞いていないようにみえる。
- ◇自分の考えや気持ちを発表や作文で表現することが苦手である。
- ◇時間の切り替えがうまくできないときがある。
- ◇学習ルールやその場面だけの約束ごとを理解できない。
- ◇質問の意図とずれている発表(発言)がある。
- ◇授業等の直前に時間割や場所が変更になると対応ができない。
- ◇場の雰囲気や暗黙のルールを理解できない。
- ◇人の話を字義どおりに理解する。
- ◇丁寧すぎる言葉遣いをしたり、反対に相手を不愉快にさせることをいう。
- ◇場面に関係なく、声を出すことや独り言が多い。
- ◇順番を待つのが難しい。
- ◇特定の物や記号、順序や配列への固執がある。
- ◇視線・表情・対人距離などの問題がある。



多様なニーズのある学生の複合化した理解の視点

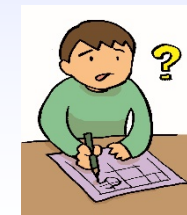
発達障がいとその可能性のある学生

- 学習における「読み・書き・計算等」の特定分野の困難性(できる・できない→差が大きい)
- 行動における多動性・衝動性・不注意が顕著
- 対人関係における他者視点に立つこと・状況理解の困難性がある



認知面・知的発達に課題のある学生

- 学習内容の定着が難しい
- わからないことがわかっていない(メタ認知)
- 集中できる時間が極端に短い
- 教科全般の理解が困難(成績への反映)



虐待が起因している可能性・愛着に課題のある学生

- 暴力・ネグレクト・心理的虐待等体験が起因した行動
- 愛着関係の課題が起因すると考えられる対人関係の諸問題(注意引き行動・反社会的な行動等)



学生を取り巻く環境要因 / 自己肯定感・有能感の高低

自己肯定感の低下による二次的な諸問題への展開防止

困り感のある学生の
体験蓄積イメージ



周りの不理解

愛着に関連
する課題

いじめ体験
失敗体験の蓄積

授業内容がわからない
(学習の理解と定着が
難しい・わからない
ことがわからない)

自己評価
の低下・
現実逃避・
自己不安

ヘルプが
出せない!

二次的な諸問題

生活リズム
の不安定

不登校

引きこもり

反社会的
行動

愛着に関連
する行動

学生を取り巻く環境要因との関連・愛着に関連する課題

自己肯定感の重要性

自己肯定感＝自分のあるがままの姿を受け止め、
「自分は大切な存在」と心から思える状態。

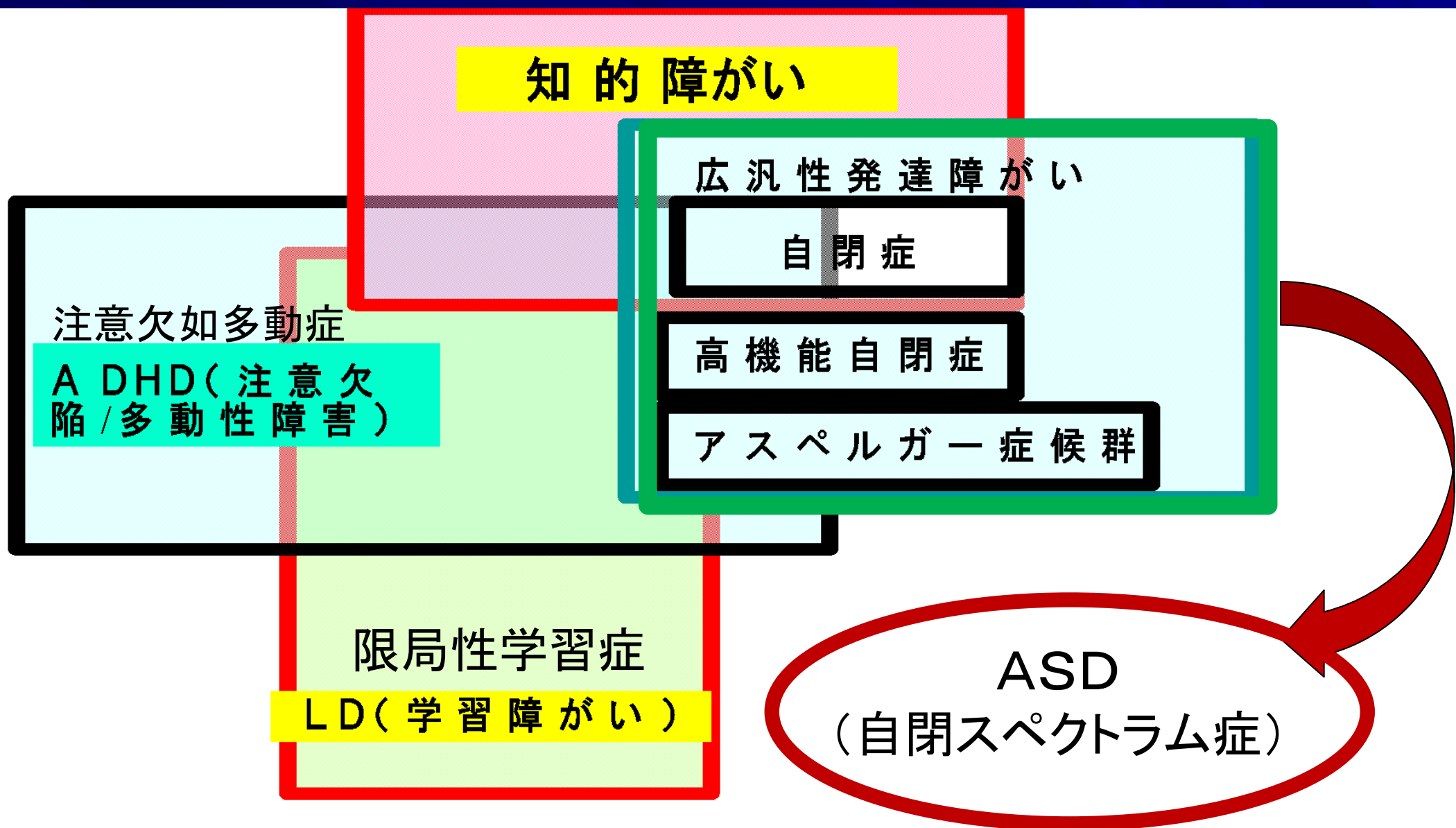
自己肯定感が高いと・・・

- ◇余裕を持って考えることができるので、少々不安であっても、前向き・積極的な行動になる。
- ◇自分の気持ちを開示することができるので周りからのアドバイスも受けやすくなり、成長できる要因も多くなる。

自己肯定感が低いと・・・

- ◇余裕がなく、少しでも不安を感じると、後向き・消極的な行動になる(しない・・・、イヤだ・・・)。
- ◇自分の気持ちを開示することができず、周りからのアドバイスが受けにくくなり、成長できる要因が少なくなる

発達障がいの基礎理解(全体像)



保護者との信頼関係の構築と連携をめざして

保護者の心情・悩み・戸惑い等に寄り添う支援（理解と共感）



- ◇保護者の思いや悩みを共感的に聞く
- ◇子どものストロングポイント（強み・得意なこと・潜在性等）を共通理解し、話題のキーワードにしていく
- ◇これまで保護者が取り組んできたことを肯定的に理解した上で、次の新たな方針を提案していく
- ◇卒業後の就労や将来像について、良い方向に進んだ事例等を紹介しながら信頼関係を構築していく
- ◇根拠に基づいて職種や職場環境を提案していく

大学における合理的配慮と基礎的環境整備の課題

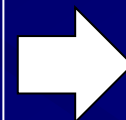


障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

(平成28年4月1日から施行)

◇不当な差別的取り扱いの禁止

◇合理的配慮の提供



大学で取り組む新たな観点が必要



「合理的配慮」とは、「障がいのある学生が、他の学生と平等に教育を受ける権利を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適切な変更・調整を行うことであり、障がいのある学生に対し、その状況に応じて、教育を受ける場合に個別に必要なもの」であり、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は、過度の負担を課さないもの」と定義されている。

「基礎的環境整備」とは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、「合理的配慮」のように個別的な対応ではなく、より広く全体的に(複数・多数への配慮)必要な事項として対応する環境整備のこと。

不当な差別的取扱い

—他の学生が参加できる場に、同等な参加の機会の保障をするために—

障がいを理由に、



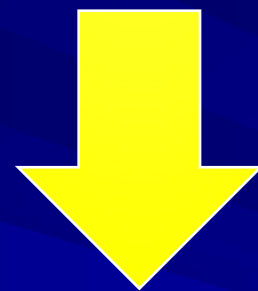
受験・入学・試験
授業・実習の受講
サークル活動・研究活動
研修・研究会等への参加
施設・サービス利用



を制限したり、断ることは、
「不当な差別的取り扱い」になる

合理的配慮

障がいのある学生が、障がいのない学生と同等の機会を得るために必要な変更・調整



- ◇対象となる個人や場面によって、求められる内容が変化する
- ◇不均衡な負担を求めるものではない
- ◇合理的配慮は、障がいのある生徒に対して提供されるが、同時に、周りの学生への理解啓発が重要

障がいの種別に応じた配慮の例

肢体不自由	移動や車いすを配慮した座席の確保、移動に時間がかか かかることへの配慮、紙媒体を電子媒体にする等
発達障がい	注意事項を文書でる伝達、レポート提出期限への配慮、 慮、休憩室の確保、別室受験、試験の時間延長等
聴覚障がい	パソコン・ノートテイク、授業内容の視覚化(レジュメ)、 ジュメ)、話す速さへの配慮等
視覚障がい	資料等の電子データ化やそれらの点訳・音声変換、 拡大読書器や照明器具の使用等
内部障がい	入院や通院に伴う欠席への配慮、実技の代替え課題の の用意、中退室・休息の許可等

「合理的配慮」(個別性の高いニーズに即した配慮)

「基礎的環境整備」(全体への支援:ユニバーサルデザイン)

Aさんの
ための合理的配慮

Bさん
のための合理的配慮

Cさんの
ための合理的配慮

Dさんの
ための合理的配慮

Eさんの
ための合理的配慮

自治体・学校法人等が行う環境整備

- ・学校法人や学園の特色によりこの整備のあり方が異なる。
- ・それぞれの環境における「基礎的環境整備」の状況により、提供される「合理的配慮」は異なる。
- ・国・都道府県等の自治体や学校法人(学園)が行う基礎的環境整備、と、学校が行う基礎的環境整備がある。

「合理的配慮」

「合理的配慮」は、「基礎的環境整備」を基に個別に決定される。

「基礎的環境整備」

合理的配慮の基礎となる環境整備

ユニバーサルデザイン

教育の「本質的変更」にならないかの検討

授業の趣旨や大学教育の本来の目的・内容そのものを大きく変更したり、基準を下げることにならないか？



例えば・・・

- ◇グループワークの内容を座学の内容に変更してほしい。
- ◇実技試験を他の内容に変更してもらえないか（実験の授業を免除してほしい）。
- ◇研究協議形式苦手なので、レポートなど別の形で代替してほしい 等

大学における障がい学生支援・配慮の考え方

○障がいのある学生が日々体験している「生きにくさ」を軽減し、多様なニーズのある学生の能力等を最大限発揮できる環境づくりをめざす。そのために、具体的な事例を通して検討していく。



○学生自身のエンパワーメントの観点から、在学中の取り組みが卒業後のスキルアップにつながることをめざす。

○支援や配慮の展開に当たり、学生本人・保護者・教員・支援コーディネーター等と一緒に考えていく「合意形成に向けた関係性づくり」を大切にしてい

安心できる集団づくりと

自己肯定感を高める対応や支援について



安心できる集団づくり

安心



居場所

違いを認め合える集団づくり



失敗を認め合える集団づくり



否定的にとらえない集団づくり

安心できる・やる気のでる集団づくりと 学生どうしをつなぐ対応と支援の基本

- ①肯定的な指示や指摘のバリエーションを多用する
- ②学生どうしをつなぐことばを大切にする
- ③ワンアッパ・ワンダウソの対応を心がける
- ④自己選択等の主体的判断ができる場面をつくる
- ⑤基本的なSSTを日常の中で習慣化していく
(あいさつ、あやまる、お礼、ヘルプ:教えてください等)

自分の得意な学習スタイルに気づく支援

僕は、繰り返し見直しながら一つずつ確認していくのがあってるみたい。

私は、話すことで、理解が深まるタイプみたい。

私は、自分で興味のあることを調べながら勉強するほうがあってるみたい。



主体的な学びを実現するアクティブラーニング

主体的な学び



納得

なるほど！
こうなってる
のか！
おもしろい

やってみたい！ → もっとやってみたい



疑問

不思議

なぜ？
どうして？

対話的な学び

(対教員・对学生)

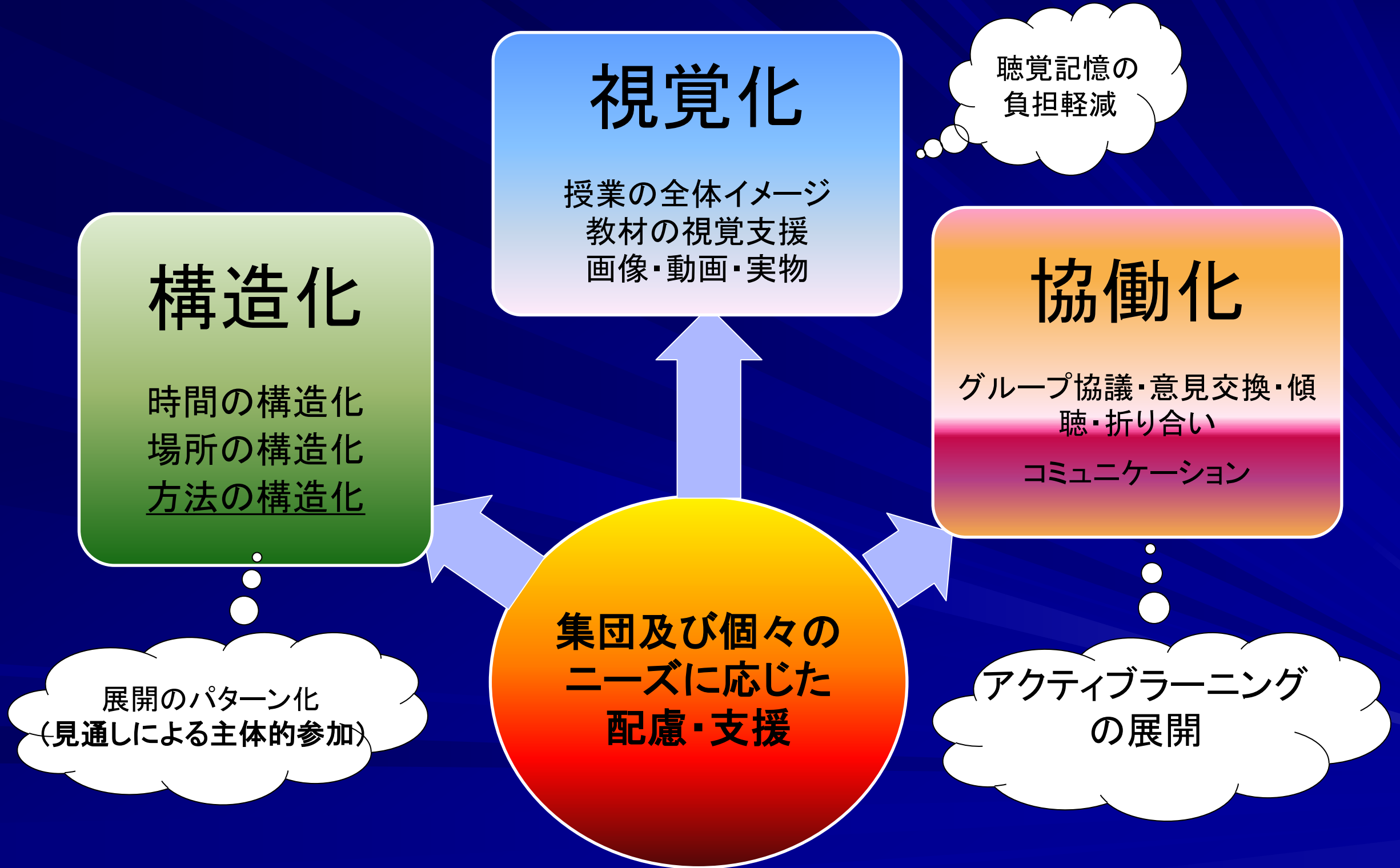


深い学び

次はこうしてみよう
～さんとやりたい



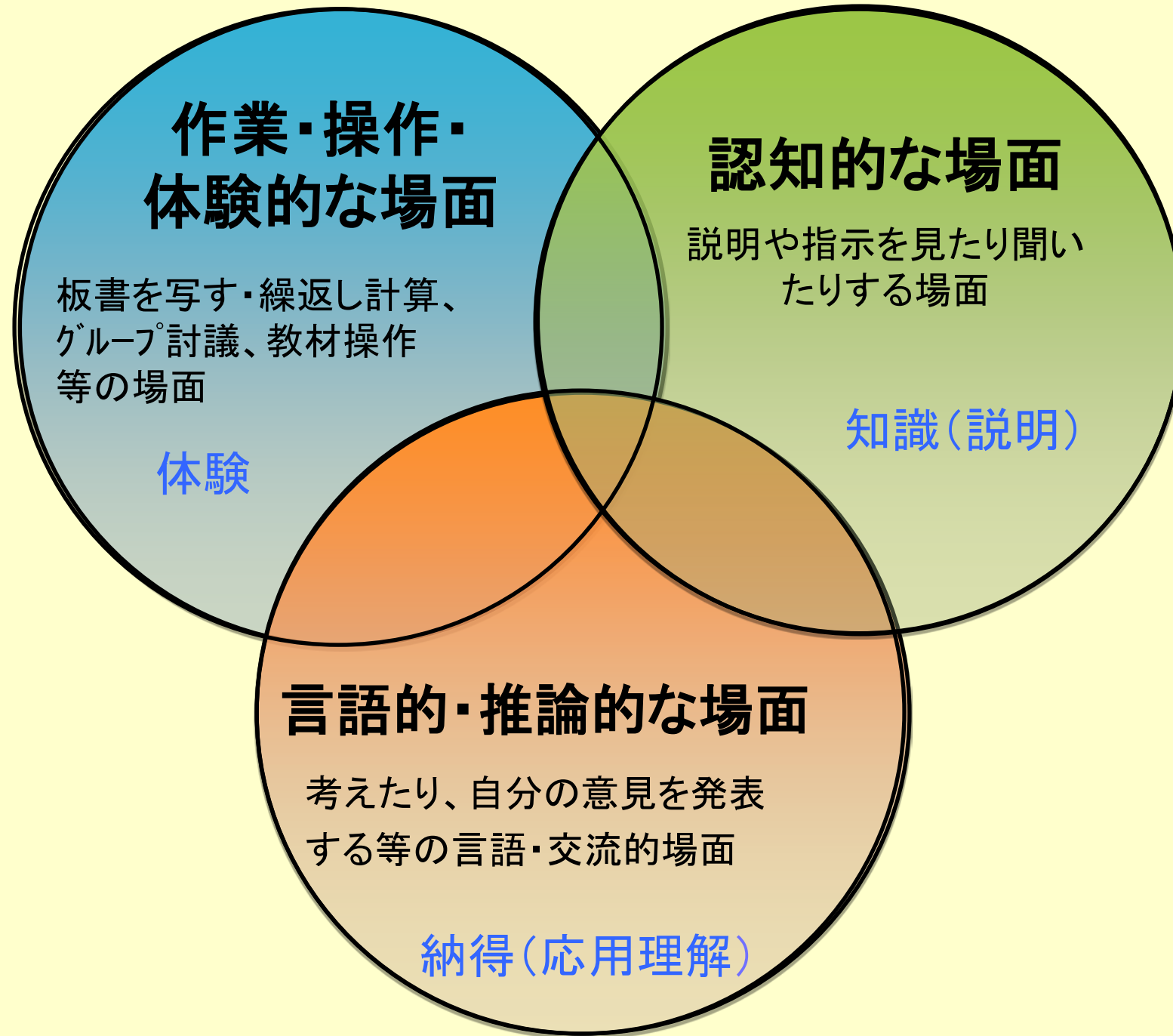
「主体的・対話的で深い学び」を実現する対応と支援の工夫



わかりやすい授業における場面・構造・要素

教科特性を踏まえた指導

指導方法の構造化・系列化



認知特性(ストロングポイント)の把握
行動特性の把握と具体的配慮(全体・個別)

基本的授業規律・ルールづくり・安心して学べるクラスづくり

<全ての学生に共通した願い>

- ほめられたい(認められたい)
- 役に立ちたい
- 自分の意思や気持ちを伝えたい(関わりたい)
- 学びたい(もっと知りたい)
- 新しいことに挑戦したい

